

こども病院の現地建て替え試算をゼネコンに聞いて1.5倍にした「検証」問題

市の説明は矛盾だらけ。疑惑がますます深まった

日本共産党宮本市議が追及



日本共産党の宮本秀国市議は3月23日の条例予算特別委員会で、こども病院移転検証をめぐる疑惑について吉田市長を追及しました。市側の説明の矛盾がますます浮き彫りになりました。

1 解体・仮設費がなぜか4倍に 本体建設は「15%アップ」?

病院移転の「検証・検討チーム」が現地建て替え費用をコンサルタント会社(PWC)の試算に乗せして128億円にした問題で、市はこれまで「更地に建設した場合の1.5倍は見込むべき」と説明してきました。

宮本市議は、PWCが「解体、仮設建物」のいわゆるローリング費11億円を含めて85億円の試算を出したのに、市はさらに42億円を上乗せしたことを明らかにしました(下表参照)。本体建設はどこでも同じはずなのに、市側は「15%アップした」と新たな言い訳。宮本市議の追及に、市側は「詳細には承知していない」「メモに書いてあった」と答弁したものの、ゼネコン名は公表しようとしません。

試算1.5倍の真相を隠しつづけ矛盾におちいる吉田市長ら。疑惑はますます深まりました。

2 破棄したメモは「公文書」 市の規則でもはつきり

市は「1.5倍」の根拠となったゼネコンからの聞き取りメモを破棄したが、「個人の備忘録であって問題ない」と説明しています。

宮本市議は「福岡市公文書の管理に関する規則」と「文書事務の手引」を示して「公文書とはどういうものか」と質問。市側は「職員が職務上作成した文書であって、内部検討に付されたもの」と認めました。宮本市議は「メモを元に内部検討した。明らかな公文書だ。破棄したことは重大問題だ」と厳しく指摘しました。市は「公文書でない」と苦しい言い訳に終始しました。

こども病院の現地建て替え試算の内訳		
	PwC報告書	検証検討チーム資料
建設費	73億6000万円	84億6000万円
ローリング費	11億円	42億8000万円
その他	9000万円	9000万円
計	85億5000万円	128億3000万円



徹底解明を!

「調査特別委員会」の設置を求める請願署名を提出する「こども病院の人工島移転に反対する連絡会」の石村代表ら